

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：コミュニケーションを解き明かす 会話分析研究の入門と実践 ILAS Seminar :Exploring human communication - An introduction to Conversation Analysis	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Associate Professor, YOKOMORI DAISUKE Graduate School of Asian and African Area Studies Professor, TAKADA AKIRA		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	15 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Fri.5
Classroom	24, Yoshida-South Campus Bldg. No. 1			Language of instruction	Japanese
Keyword	相互行為 / ビデオ分析 / ことばの民族誌 / 言語と非言語				

[Overview and purpose of the course]

コミュニケーションは、面白い。ふと周りの人々のやりとりを観察してみると、話が噛み合わずにトラブルになってしまっていることもあれば、不思議なほど円滑に会話が進んでいることもある。こうしたコミュニケーションの面白さや難しさは、私たちの日常生活のありとあらゆる場面に見出される。家族と団らんしたり、友達を作ったり、事務手続きについて問い合わせたり、サークルで話し合いを行ったり、バイト先で客に対応したり等、私たちが暮らす社会は、人と人との相互行為の積み重ねによって形作られている。いわば、相互行為は人間社会のインフラであり、人間について、そして社会・文化・言語など人間の生み出した諸々について理解するための基礎になるものである。

本授業の主題である「会話分析(Conversation Analysis)」とは、人々の中の相互行為について探究する学問分野である。会話分析は、社会学の一領域から出発し、人類学や言語学などの諸学問との交流を経て、独自の発展を遂げている。現在では、社会学・人類学・言語学はもちろん、認知科学・外国語教育学・教育学・経営学・情報工学・医学などきわめて多岐に渡る領域において会話分析の知見が利用されている。

会話分析という分野の特徴の一つは、実際の相互行為を録音・録画し、データに基づく研究を行うことである。データ分析では、やりとりの中で発される言葉はもちろん、ちょっとした息づかい、声色の変化、一瞬の間、顔の表情や視線の動き、身体の振る舞いなど、言語的資源と非言語的資源の両方をミリ秒単位で精密に観察することで、相互行為の秩序や構造を解き明かす。

この授業では、会話分析研究の入門と実践を通じて、何気ないやりとりの中に学問的探究の種を見出し、それを研究成果として結実させるまでのプロセスを体験し、各自の専門分野における学びに向けた礎を築くことを目的とする。

[Course objectives]

- ・ 会話分析という学問分野の主要な知見について理解する。
- ・ 相互行為という日常的な題材に対して、学術的にアプローチする構えを身に付ける。
- ・ 相互行為のビデオデータを収集し、会話分析の知見に裏打ちされた学術的な観察の技能を身に付ける。

[Course schedule and contents]

学期を通じて、会話分析の主要な知見の概要を学びつつ、ビデオデータの収集と分析の実習を行う。各回の計画は以下の通り。

- 第1回：会話分析とは何か：会話データから何がわかるのか？どのような学問分野と関わるのか？
- 第2回：会話のビデオ収録の方法
- 第3回：会話分析の基礎概念
- 第4回：ビデオデータ観察事始め
- 第5回：文字起こし（語句、韻律、パラ言語）
- 第6回：文字起こし（身体行動、民族誌（エスノグラフィー））
- 第7-8回：会話分析の基礎概念の検証
- 第9-10回：会話分析の学際的展開：人類学・言語学を例に
- 第11-14回：会話分析研究の実践
- 第15回：フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

授業への貢献度（授業中のプレゼン等を含む）70%
期末プレゼン30%

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）

串田秀也・好井裕明（編）『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』（世界思想社、2010年）ISBN: 4790714691

串田秀也・平本毅・林誠『会話分析入門』（勁草書房、2017年）ISBN:4326602961（京都大学図書館電子リソースで電子版を読むことができます。）

高田明『相互行為の人類学：「心」と「文化」が会う場所』（新曜社、2019年）ISBN:4788516071

平本毅・横森大輔・増田将伸・戸江哲理・城綾実（編）『会話分析の広がり』（ひつじ書房、2018年）ISBN:4894768534

[Study outside of class (preparation and review)]

授業の展開に応じて、授業外での課題に取り組んでいただきます。具体的には以下の通りです。

- ・ 自分の身の回りでの会話を収録するなどして分析対象のデータを用意する
- ・ データの分析対象部分を文字起こしする
- ・ 会話分析に関する入門的文章を読み、担当範囲をプレゼンする
- ・ データ中の特に興味深い箇所について、授業で学んだ内容を踏まえた観察を行う

[Other information (office hours, etc.)]

この授業を選ぶかどうか迷った場合は、参考書に挙げている書籍を図書館等で探し、パラパラとめくってみて面白そうと思えるかどうかという観点から判断してみると良いかもしれません。